

泥炭草地の更新で 除草剤を使える条件

概要 Abstract

泥炭土草地は土砂含量が低いため、草地更新時のグリホサート系除草剤（NC-622液剤）の播種床処理は薬害発生リスクのため推奨されていない。

近年多くの草地更新で泥炭土草地で客土が行われ、作土中の土砂含量が高い草地が増えている

本試験の結果、客土済みで表土土砂含量が55%以上ならば泥炭土の播種床処理で本剤を使用できることが示された。

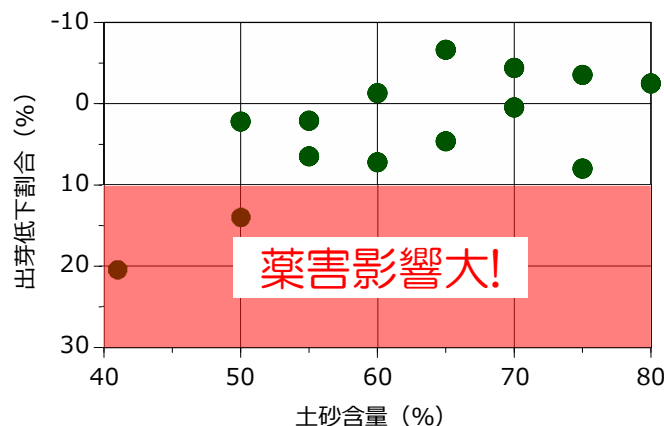


成果 Results

土砂含量55%以上では10%以上の出芽率低下を示さない（右図）。

水分状態が過湿であっても、薬害が大きくなることはなかった。

土砂含量54-76%の範囲では、現地の圃場では各草種の越冬前個体数に除草剤の影響は見られなかった。



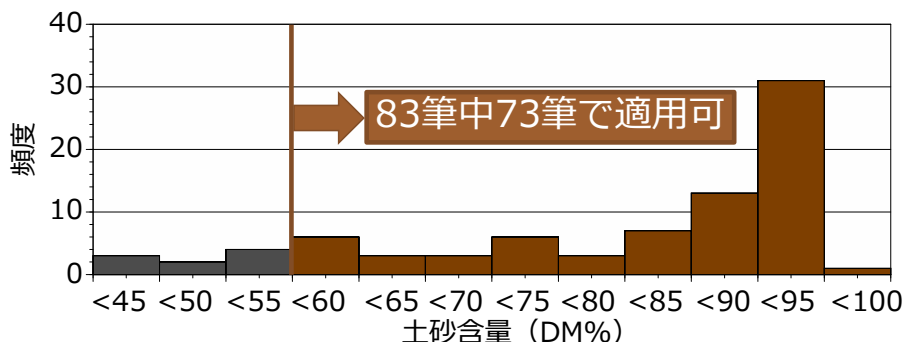
客土済み泥炭地では播種床処理で、雑草を抑えることができた（写真）。

現地の泥炭土草地は9割弱が土砂含量55%以上であり、ほとんどの客土済み泥炭草地で今回の成果を適用できる（下図）。



更新後12日後の圃場の様子

（左：播種床処理、右：無処理）



普及 Dissemination

客土済み泥炭土において播種床処理を行う際に活用する。

土砂含量が低いことが懸念される場合は、実際に土砂含量を確認する。

連絡先 Contact

酪農試験場天北支場
地域技術グループ
01634-2-2111
tenpoku-agri@hro.or.jp